賊津使主而來之、

〔古事記下安康〕大長谷王、○中略倏忽之間自馬往雙、拔矢射落其忍齒王、○中略於是市邊王之王子等、意富祁王、袁祁王二柱聞此亂而逃去、故到山代苅羽井、食御粮之時、面黥老人來奪其粮、爾其二王言、不惜粮、然汝者誰人、答曰、我者山代之猪甘也、

〔東大寺正倉院文書二十七〕越前國天平三年正稅帳

合定大稅穀貳拾貳萬漆仟壹伯參拾玖斛漆斗陸升漆合漆勺振入斛別一斗、不動穀八万九千七百一十三斛一斗、○中略

糯。玖仟漆伯捌斛玖斗肆升爲裏一万九千四百一十七、裏別五斗、餘四斗四升、

正倉貳伯捌拾肆間、○下略

〔續日本紀二十三淳仁〕天平寶字四年八月辛未、轉播磨國糯一千斛、○中略貯小治田宮、

〔日本靈異記下〕憶持法華經者舌著曝髑髏中不朽緣第一

諾樂宮御宇大八洲國之帝姫阿倍天皇○孝謙御代、紀伊國牟婁郡熊野村、有永興禪師、化海邊之人、時貴其行、故美稱菩薩、從天皇城有南、故號曰南菩薩、爾時有一禪師、來於菩薩所、○中略歷一年餘、而思別去、敬禮禪師、奉施繩床、而語之曰、今者罷退欲居山、踰於伊勢國、禪師聞之、糯干飯舂篩二斗、以之施師、

〔日本靈異記下〕髑髏目穴笋揭脫以祈之示靈表緣第廿七

白壁天皇○光仁世寶龜九年戊午冬十二月下旬、備後國葦田郡大山里人品知牧人、爲買正月物、向同國深津郡於深津市、而往、中路日晚、次葦田郡於葦田竹原、○中略明日見之有一髑髏、○中略自所食餉、以饗之、○下略

〔伊勢物語上〕むかし男有けり、その男、身をえうなき物に、思ひなして、京にはあらじ、あづまの方にすむべき國もとめにとて行けり、○中略みかはの國八はしといふ所にいたりぬ、○中略其さわのほとりの木のかげにおりゐて、かれいひ。ひくひけり、そのさわにかきつばた、いとおもしろく咲たり、